

～春の花木～



ユリノキ 百合木

モクレン科 落葉高木 北アメリカ原産

5～6月に高い枝に上向き咲く花は気づきにくい、大きな公園等に植えられている



大きな樹冠で真夏の厳しい日差しを遮る、街路樹(表参道のケヤキ)

植栽管理

厳しい冬の寒さを耐え、暖かい春の訪れと共に多くの植物が芽吹き、動き出す季節となりました。

世話などしなくとも、植物は勝手に生長し繁茂し続けますが、放置すれば生活をするうえで望む方向には行かなくなり、身近な生活環境下にある、人が植えたり管理したりしている植物を植栽と言います。その植栽に関して世話(＝管理)をしなくては安全で快適な環境が維持できなくなります。

植栽管理の多くは伸びたから刈る、切るといった作業が中心です。生き物である植物の種類によってライフサイクルが異なるため、植栽の種類に応じた作業の内容、時期の適不適があります。参考資料として裏面に年間作業目安表を付けました。

大きくなる樹木は気候変動が進み夏の暑さが厳しくなる中、木陰をもたらす生活する地表面の気温を下げる、景観向上によって資産価値や精神的安定をもたらすなど社会にとって大切なインフラです。

しかし、落ち葉への苦情対策、また相続対策で緑豊かな屋敷林が売却され、緑のない細切れの宅地開発により、都市の大きな木、木の減少が進んでいます。さらに、倒木事故などが報じられると「大きい木は危ない」といった印象をもたらす、安易な伐採につながることがあります。

安全は第一です。適切な樹木の点検等により倒木の可能性のある樹木の撤去・更新(伐採や抜根をして植替え)も大事です。適切な植栽管理により、安全で快適な環境を維持・拡大して、少しでも住みよい社会にしたいものです。

残すときもある

とある神社から、「本殿前のご神木(ケヤキ)から枯枝が時折落下するけど大丈夫なのか」と、問い合わせをいただき、現地確認をしました。

当該木は樹高(H)24m 幹周(C)358cm 枝張(W)14m と非常に大きな高齢のケヤキで、樹上には枯枝が散見され、根元には大きな穴が開いていました。街路樹診断の基準で診断すれば「不健全」→伐採の判定になる可能性は高く、まずは意向を確認しました。残せるなら残したいとの事であり、枝折れや風圧等による幹折れ、倒木リスクを軽減するため上部の枝を大きく剪定しました。幹の内部は腐朽や空洞が進んでいると思われますが、地際の太根は発達しており倒木の可能性は低いと考えました。剪定期は落葉樹にとってダメージの少ない2月上旬にしました。



根元には大きな穴が開いている



剪定前 2025. 2

現地確認に伺った際、時おり参拝者の方がご神木のケヤキの幹に手を添えている姿に、心を打たれました。

関係者の方とお話から、倒木等の可能性が高いなら伐採もやむなしとの話がありました。見立てとして、根元や幹に大きな空洞や腐朽の被害があり、公共の街路樹診断の基準では伐採でも間違いではないレベルとの話をしました。しかし、剪定により枝折れや倒木リスクの軽減をすれば残しても大丈夫だと思いますとの話をして、最終的に残す方で判断いただきました。作業にはいつも以上に気を遣ったのは言うまでもありません。



剪定後 2025. 2

間引くときもある

とある学校の幹線道路沿いの高木が長期間無剪定で大きく繁茂し、過去には台風でヒマラヤスギが道路側に倒れた事もありました。

このまま何もしなければまた倒木事故等のリスクがある旨を申し上げ、処置を提案しました。主に大きくなったヒマラヤスギとクスノキの2種類が交互に植えられており、①全て樹高・樹冠を縮小する剪定(＝強剪定)により風圧軽減を図り倒木リスクを減らす、②ヒマラヤスギは全て伐採(間引き)して、クスノキは強剪定を行い残す、の2案を提示しました。実施したのは②案になりました。

結果的にはヒマラヤスギ倒木のリスクは0に、横にも広がるクスノキの生長により上から見た緑の面積(樹冠被覆率)も回復しつつあります。



剪定前 2022. 7



剪定後 2022. 8

真夏の暑い時期に多くの枝葉を切り詰める「強剪定」は樹木にとって良くないとされています。

可能なら5～6月頃が良かったのですが、発注のタイミングや夏休みで人が少ない時期、台風シーズン前ということで、真夏にすることになりました。

最悪枯れてしまうかとも思いましたが、約3年たち枝葉が茂ってくれているのは嬉しいことです。

別の場所では大丈夫かと思い3月に強剪定したクスノキが枯れるなど、やってみないとわからない事も多いのです。



剪定2年8か月後 2025. 4

植栽管理 年間作業目安

作業時期は一般的な目安です。植栽の種類や気候、目的等により変わりますので、詳しくはお問い合わせ下さい。

適期 ●————● 多少よい時期 ●————●

作業内容\時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
樹木管理													
常緑樹剪定(高中木)		常緑樹は新芽が落ち着いてからがよい					常緑樹は寒い時期はよくない						
落葉樹剪定(高中木)	花木は花芽形成前に剪定			夏期剪定(軽剪定)			落葉前だと落葉清掃が楽/冬期剪定(基本剪定)						
低木植込み・生垣刈込		花木は花芽形成前に剪定					花芽形成後の花木は、とびを取る程度に軽く刈込む						
植込み地除草		最低年2～3回は行いたい											
施 肥	春の芽だし肥や花後のお礼肥(速効性肥料)					寒肥は特に有効(遅効性肥料)							
病害虫防除	チャドクガ(ツバキ類)注意			サクラ、ツバキ類注意			冬季にはマシン油乳剤、石灰硫黄合剤が散布できる						
マツ手入れ	みどり摘み							もみ上げ(古葉落とし)、透かし剪定					
マツ枯れ防止	枯マツは春先の伐採が特に有効								冬期はマツ枯れ防止 殺線虫剤の樹幹注入時期				
枯枝剪定・枯木伐採	枯枝も枯木は、いずれ落枝や倒木するため、危険度に応じて発見したい処置が必要												
芝生管理	★冬に休眠(冬枯れ)する、野芝や高麗芝などの日本芝の場合												
芝刈り		月1回		月2回		月1回(11月で刈り止め)							
除草剤散布							冬雑草発芽前		夏雑草発芽前				
施 肥													
手取り除草							冬雑草は目立つので取りやすい						
エアレーション・目土													
芝張り(補植含む)	サクラが散ってから梅雨前がベスト												
裸地・そのた管理													
草刈り・除草			年に3～4回は行いたい				11～12月で刈り止め						
落ち葉そうじ	新芽が出た後の常緑樹(クスノキ等)								落葉樹				
樹木点検	枯枝や危険木の早期発見						台風後の被害点検			大雪後の被害点検			

植栽管理作業の頻度は…

植栽地の目的や目指している品質によって、管理作業の頻度や内容は異なります。同じ敷地内でもエリアによって作業頻度を変えることもあります。玄関前は除草を年4回にしようとか、ここは人が余り来ないから年2回にしようなど、場所や植物の種類によって異なります。

<上表年間作業スケジュールの補足です>

- ・高中木剪定…年1回が理想ですが、本数が多い、予算を減らしたい場合など2～3年に1回程度の作業が望ましいです。何か支障や事故リスクがある場合は目標回数に囚われず適宜処置が必要です。
- ・低木や生垣など刈込物…萌芽力が旺盛な樹種が多く、人目につく位置でもあり、最低でも年1回、出来れば年2回が望ましいです。
- ・草刈り…最低限は年2回、最後は冬の手前で刈り止めをします。刈る作業よりも刈った草の集草・搬出が手間なため、刈りっぱなしにした場合、手間や費用は大幅に下がります。



管理作業の例(表面の神社)